科目名			担当教員	
精神保健福祉実習指導Ⅱ			三城　大介ほか	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CX5261	2	1	SR（演習）	4年以上
履修登録条件		「精神保健福祉演習Ⅱ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方が履修登録できます。		
生成AI利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

●社会福祉学科の精神保健福祉士国家試験受験資格取得希望者のみが履修できる科目です。

●「精神保健福祉実習Ⅱ」（以下、精保実習Ⅱと表記）を履修する実習受講者の「精神保健福祉実習指導Ⅱ」（以下、精保実習指導Ⅱと表記）スクーリングは、「精神保健福祉演習Ⅱ」（以下、精保演習Ⅱと表記）との組み合わせにより開講されます。

●実習免除者は、履修不要です。

※本科目の開講形態は、「精保演習Ⅱ」の「演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ」の項を参照ください。

※今後の見直し等により、ここに記載の内容を変更する場合があります。詳しくは『With』等でご案内します。

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉士養成にとってマルチパーソンクライエントシステムと直接的にかかわり、ミクロからメゾ、マクロ的な視点で学べることは、その資質や力量を養ううえで重要です。

この科目では、施設での現場実習を視野に入れ、事前、事後の学びの中でこれまで獲得した知識や理論、技術や技能などを臨床的にリカレントして再統合することを目的とします。

■到達目標

1）ソーシャルワーク・コンピテンシーが説明できる。
2）自身の実習目的や課題が説明でき、それに基づいた実習計画が策定できる。
3）実習におけるリスクマネジメントを理解し説明できる。
4）実習記録や支援計画などの記載について説明できる。
5）スーパービジョンの構造を説明し、実際に行うことができる。
6）実習計画に基づいた振り返りをし、自己評価を言語化できる。
7）実習先の役割を理解し、そこに必要な精神保健福祉士としてのスキルを説明できる。
8）自己覚知のための自己洞察ができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価70%

※評価はグループワークにおける協力や演習への積極的参加の度合い等から総合的に行います。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■教科書・参考図書

【教科書】（「精保実習指導Ⅰ」「精保実習Ⅰ・Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新精神保健福祉士養成講座［専門科目］8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（精神専門）』中央法規出版、2021 年

※「精神保健福祉実習指導Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、適宜配付する資料と併用して演習を進めます。

【参考図書】

適宜、演習の中で紹介します。

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

「精保演習Ⅱ」の同項目をご参照ください。

■スクーリング受講条件

【実習受講者】「精保実習指導Ⅱ」（精保実習Ⅱ事後指導）スクーリング

※最新の受講条件は、『With』または『試験・スクーリング情報ブック』でご確認ください。

①受講 1 カ月前の指定期日までに達成

・「精保実習指導Ⅱ」2 単位めレポートの提出

②受講当日に提出

・『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』

■スクーリングで学んでほしいこと

これまで学んだ知識や理論、技術などをリカレントして再統合し、対象となる実習施設に合わせた実習計画を立て、実習に臨むこと。そして、実習事前事後の振り返りを通して、臨床の場の精神保健福祉士に必要な力量を評価して今後の学習につなげる姿勢を身につけて欲しいと願います。

また、振り返りの中で自己洞察し、自己覚知につなげる力を身につけて欲しいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワーク実習の目的と構造	講義―演習―実習の循環構造を理解し、現場実習の意義を理解する、また、精神保健福祉士としての職業倫理や守秘義務、マルチパーソンクライエントシステムを理解する
2	実習先決定に伴う準備 1	実習対象医療機関のみならず、その地域特性や地域内の社会資源との連関などの情報収取の必要性を理解する

3	実習先決定に伴う準備２	収集した情報を基に、この実習で得るべき目標を基に実習計画を作成する
4	実習中の学習	実習中の LSV や自己の評価を学びの材料と捉える
5	実習後の学習	事後レポートを作成し、実習の振り返りを整理してまとめる
6	実習の実際１	医療機関において精神保健福祉士に求められる力量について理解する
7	実習の実際２	医療機関における精神保健福祉士の責務としてのコンプライアンスやアカウンタビリティーについて理解する
8	振り返りと自己覚知	事後の振り返りにより自己洞察を深め、援助者としての自己覚知を促す

■講義の進め方

この演習では板書をもとにした座学と、事例やテーマに沿ったディスカッションやロールプレイを併用して進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング評価基準

スクーリング中に学んだことを、到達目標の記載内容に重きを置いて評価します。

演習レポート 30%＋演習内容 70%

※評価はグループワークにおける協力や演習への積極的参加の度合い等から総合的に行います。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

実習を行うことを前提として、これまで学んできた社会福祉、精神保健福祉領域とそれに関連する領域についての知識をもう一度見直してからスクーリングに臨んでください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

「レポート課題（スクーリング受講前・受講後の課題）」の課題２に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	実習の構造	ソーシャルワーク・コンピテンシーに基づいた講義―演習―実習の循環を知る	講義と演習、その延長線上にある実習のプログラムを循環することで、精神保健福祉士としての行動特性や力量を知ることができる。その機能を理解する
2	実習指導の意義と目的	実習の意義を概観し、精神保健福祉士としての倫理観や自己学習の方法を理解する	マルチパーソンクライエントシステムに直接的に接することで得ることができる実習の意義を理解し、養成教育の意味を知る

3	実習における SV	SV の機能を再確認したうえで、実習の場での SV を理解する	実習や実習指導の際、臨床の場での振り返りのための SV と、大学に戻ってからの振り返りのための SV という二重構造があることを理解し、自身の学びを深めることや自己洞察につなげる
4	実習の評価と実習の構造	実習における評価の仕組みや実習自体の構造を知る	実習の構造や評価の仕組みを理解することにより、自身の評価を今後の精神保健福祉士としての学びに生かせることを知る また、実習に係るシステムの全体像を理解する
5	実習におけるリスクマネジメント	実習中に起きる可能性が予見されるリスクを具体的に捉え、未然に回避する方法やリスク分散させる方法を知る	実習者自身のみならず、マルチパーソンクライエントシステムに影響を及ぼす可能性があるリスクを整理し、対処を事前に学んでおく
6	事前学習としての情報収集	医療機関実習を前提とし、実習先の情報を収集する	対象となる医療機関の情報収集だけでなく、対象の地域や地域内での社会資源との連携の状況など詳細に情報収集し、実習計画の作成に役立てる
7	記録について	医療機関における記録の方法について理解する SOAP（看護記録）等他専門職の記録とも比較し、職性の違いを理解する	実習記録のみならず、臨床の場でとられているケース記録の方法やその他の記録について理解する
8	実習施設・機関の理解（施設）	実習施設や機関、実習指導Ⅱでは特に医療機関の機能や目的を知る	医療機関での入院や通院による治療やデイケア、訪問看護などの機能を知り、地域資源との連携を知る
9	医療機関における精神保健福祉士の役割	精神科医療機関での精神保健福祉士の役割や業務、職性について知る	入院時支援から退院・地域定着支援までの流れや機能と合わせ、そこでの精神保健福祉士の役割を理解する
10	実習準備と実習計画	実習計画の策定方法や事前訪問、事前打ち合わせの意義について理解する	事前に収集した情報を基に、この実習で得られる、もしくは獲得したい知識や技能、技術、機能などに焦点化した実習計画を策定する実習がスムーズに実施できるよう事前訪問や事前打ち合わせの意義について理解しておく
11	実習中の学習	実習を効果的に進めるための実習生の役割や姿勢を知る	実習中のＳＶを効果的に使い、実習中の自己評価や実習先での中間評価なども参考にして、臨床での学びを深める
12	実習の実際１	精神保健福祉士に求められる職業倫理	精神保健福祉士としてのコンプライアンスやアカウンタビリティーを知る
13	実習の実際２	医療機関における精神保健福祉士の力量	ソーシャルワークにおいて必要とされる知識や技能について整理する また、カウンセリングやアサーションスキルについても確認する
14	実習後の学習	実習後の振り返りと、事後レポートを作成する	実習後の主観的な自己評価と自身の実習中の行動や対象者へのかかわり方がマルチパーソンクライエントシステムにどのように映ったかという他者評価を意識しながら振り返り、レポートを作成する
15	自己洞察と自己覚知	実習を通して精神保健福祉士としての自身を振りかえる	精神保健福祉士として施設実習を終えた自身を振り返ることにより、特性や適性、アンコンシャスバイアスの存在などを吟味して自己覚知につなげる

■レポート課題

1 単位め	「スクーリング受講前・受講後の課題」の課題 1・2 に取り組み、「実習計画」『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』を所定の方法に従って提出してください。個別に修正等の指示があります。
2 単位め	「スクーリング受講前・受講後の課題」の課題 3 に取り組み、実習後の事後レポートを提出してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■スクーリング受講前・受講後の課題

課題1

「精保演習Ⅱ」（精保実習Ⅱ事前指導）スクーリング受講前の課題

1）「精保実習Ⅱ計画（案）」を Word データで作成し、精保実習係（psw@tfu.ac.jp）宛にメール送信してください（提出締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または申込時の『With』を参照ください）。

（提出方法）

・Word データは、実習受講前年度に申込みを行い、当該年度１月末までに実習受講条件を達成した方へ、個別にメールにて送信いたします。

・メール提出の際は、件名「精保実習Ⅱ計画（案）」と本文に学籍番号・氏名を明記してください。

2）『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』の「事前学習について」の部分をすべて完成（「事前訪問までの準備」の部分は記入できる範囲で記入）させ、スクーリング時に持参し提出する。

課題2

「精保演習Ⅱ」（精保実習Ⅱ事前指導）スクーリング受講後の課題

1）実習先に事前訪問を行い、実習指導者より「精保実習Ⅱ計画（案）」の内容について確認を得た後、「精保実習Ⅱ計画書（清書用）」を完成させ、精保実習係（psw@tfu.ac.jp）宛にメール提出する。

2）実習先への事前訪問後、『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』の「事前訪問までの準備」の部分を完成させる。

3）実習先への依頼状＝個々人で実習生として指導していただくことへの感謝とお願いの気持ちを込めて、実習開始２週間前頃に実習先へ依頼状（封書）を出す。

課題3

「精保実習指導Ⅱ」（精保実習Ⅱ事後指導）スクーリング受講前の課題

事後学習は、援助実習での自己の振り返りを行い、自己評価とあらたな課題設定に向けて、一定の整理を行うものです。下記に沿い課題にあたってください。

1）実習終了後、速やかに実習先へ御礼状（封書）を出す。

2）「精保実習Ⅱ事後レポート（科目名：「精保実習指導Ⅱ」の２単位め）」：4,000 字程度を作成し、所定の提出締切日までに提出してください（提出締切日は『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください）。レポートにまとめる内容は下記①～④のとおり。

①実習を終えての全体的感想

②実習前と実習後の精神保健福祉現場についての印象の変化

③設定した課題の評価や自分のあらたな課題

④実習を通して知り得た自分自身の評価（課題）も含めながら現場実習の成果と評価

実習で学んだことを分析・考察する内容であることが望ましく、単なる感想のみにならないように留意してください。

※『実習記録』は、実習終了時に実習先に提出し、実習先から「実習出席簿」「実習評価表」と一緒に大学へ返送される。「精保実習Ⅱ事後レポート」作成のため、実習先に提出する前に自分用の『実習記録』のコピーをとっておくこと。

※通常のレポート提出台紙で提出する。手書き用・パソコン印字用どちらでも可。

3)『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』のすべての課題を完成させる。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【課題１・２アドバイス】

『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』に示す事前学習課題は、実習生として最低限踏まえておくべき内容です。「事前訪問までの準備」の部分は、各自で文献等により調べ、実習先の依拠する法律、組織や機能、関連法規や連携する社会資源等について調べ、事前指導スクーリングまでに整理してください。十分な準備によってまとめられた資料は、必ず実習期間中に役立つものとなります。

それぞれの関心領域に基づき積極的に学ぼうとする姿勢が実習には重要です。「実習計画（案）」の作成は学び方を客観的にまとめる作業ですので、何を学びたいのか、そのためにどう取り組みたいのかという視点で立案してください。その際、実習指導者が決まっている場合、指導者と相談しながら計画を練ることもとても有効です。「実習計画（案）」作成の留意点は以下の通りです。

- 実習先の機能や目的、地域や地域内の社会資源との連関を理解したうえで、自身が参加する実習先でしか得られないことを意識して策定してください。
- 実習前に得られることや事後に得たいことを盛り込まないように注意してください。
- 「実習のねらい」「実習での具体的達成課題」は抽象的な内容にならないよう気を付けてください。

実習先ならびに実習指導者・職員の方々は、後進の育成という使命感から、多忙な業務を割いて指導してくださることを忘れないでください。その思いに応えられる実習内容・成果を目指して万全の準備を整えて実習に臨んでください。

【課題３アドバイス】

実習後、事後指導スクーリング前の課題は、実習体験やご自身の専門職としての適性を含めた十分な振り返りを行い、レポートにまとめてください。特に、専門職としての適性については慎重に自身を見つめ直してください。実習の目標課題の達成度を含め、実習で得た内容を、実習計画に照らし合わせながら振り返り、まとめてください。